

富山県小矢部市

平成23年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2012年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

1. 本書は、2011(平成23)年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。
2. 発掘調査は国庫補助50%、県費25%、市費25%の費用負担割合で実施した。
3. 調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし、金屋本江遺跡【農業整備事業・区画整理】の試掘調査は北陸航測株式会社に委託し、田川遺跡・田川条里遺跡の分布調査は株式会社エイ・テックに委託した。担当は次のとおりである
　調査事務：中井真夕（生涯学習文化課主任）
　試掘調査：中井真夕：金屋本江遺跡（1）、金屋本江遺跡（2）【農業整備事業・排水路横断暗渠工事】、田川遺跡、宮須遺跡、大勢町遺跡、蓑輪遺跡、日の宮・道林寺遺跡
　：朝田　要（北陸航測株式会社3D文化財課 学芸員）：金屋本江遺跡（2）【農業整備事業・区画整理】
　分布調査：岡田一広（株エイ・テック文化財調査部主任）：田川遺跡・田川条里遺跡
3. 現地調査の作業員は、（社）富山県シルバー人材センター連合会から派遣を受けた。
4. 本書の編集・執筆は中井が担当した。金屋本江遺跡【農業整備事業・区画整理】については朝田氏に執筆を依頼した。
5. 土層の色調については『新版 標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著、1967）に準じている。
6. 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

事業の概要.....	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧.....	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図.....	3
金屋本江遺跡について.....	4
金屋本江遺跡（1）.....	5
金屋本江遺跡（2）【農業整備事業・区画整理】.....	7
金屋本江遺跡（2）【農業整備事業・排水路横断暗渠工事】.....	10
田川遺跡.....	12
蓑輪遺跡.....	13
日の宮・道林寺遺跡.....	15

事 業 の 概 要

平成23年度の概要

2011（H23）年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は8件である。全て市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助を受けて、7件の試掘調査、1件の分布調査を行った。そのほか工事立会1件、慎重工事1件に対応した。また、届出があったものの、耕作物の収穫や冬期間にかかることなどから、平成24年度に試掘調査する予定で調整した4件の案件があった。調査の原因は開発行為別にみると、個人の住宅建設等、経営体育成基盤整備事業（は場整備）、市道改良工事、土砂採取、店舗建設などと多様である。また、原因者は、個人3件、民間事業所1件、公共団体4件である。

開発行為の事前協議は、直接、当市教育委員会まで問合せ頂いた案件が60件を超え、その他、大規模開発や農地転用・農業振興地域除外申請に伴う問い合わせ等が20件あまりあった。この内、埋蔵文化財包蔵地の範囲内もしくはその近隣地で計画されている開発は16件あり、うち7件については試掘調査を要する案件であった。

以下、調査種類別に各々の調査について概要を報告する。なお、試掘調査で遺構・遺物を確認した案件については本書で詳細を報告する。

試掘調査

特筆すべきは、金屋本江地区の調査である。金屋本江遺跡は、平成22年度に農業基盤整備事業に先立つ分布調査によって大幅に範囲を拡大した遺跡である。長年、この地域を含む小矢部川右岸側では、庄川の氾濫源であり、遺跡の存在は無いものと認識されてきた。しかしながら、能越自動車道建設時に発見された五社遺跡や、新幹線敷設時に発見された水牧遺跡や小神遺跡、そして昨年度の金屋本江遺跡に見られるように、古墳時代～近世まで、断絶はありながらも人の営みがあった可能性は非常に高く、今後の開発に注意が必要であるとともに、地元への周知が重要となる。

分布調査

分布調査は田川地内で実施した。田川地内には、山頂にオオノントウ古墳や田川城跡が、山裾には田川白土山横穴墓群が、裾野から平野にかけては田川遺跡や田川条里遺跡が広がる。今回は、農業基盤整備事業に先立つもので事業面積は約50haである。その対象地には田川遺跡・田川条里遺跡のほぼ全域が含まれているが、事業内容は既存の用水路の付替えが主であり、遺跡に影響を与えるものではないとのことである。しかしながら、工法によっては発掘調査が必要となるであろうし、工事立会は必要である。これまで既存の管の付替え工事等に立会いした際に実見したところ、実際の工事現場ではかならずしも図面どおりの掘削方法や掘削面積では収まらず、場合によっては倍以上の面積となるケースも見られた。今回、本書で報告する金屋本江遺跡(2)【排水路横断暗渠工事】では、発掘面積は極小で一人入るのがやっとの面積であったが成果を得られたことから、バックホー重機のバケツ1杯の面積が確保できる場所は調査の形式を探っていくべきと考える。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期	調査結果	調査原因
1	金屋本江遺跡(1)	金屋本江 212-1外	5,425m ² (129.6m ²)	試掘調査	23.7.5 / 23.7.8	自然流路跡。 土師器、須恵器、珠洲、 近世陶器出土。 本書報告。	土砂採取
2	田川遺跡	田川7272番4	499m ² (22m ²)	試掘調査	23.8.9	遺構確認されず。 土師器出土。 本書報告。	個人住宅建設
3	宮須遺跡	宮須83番6外	378.65m ² (9m ²)	試掘調査	23.9.26	遺構確認されず。 遺物出土せず。	市道改良工事
4	大勢町遺跡	埴生字北反戻1 713番	297.54m ² (9m ²)	試掘調査	23.9.26	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
5	糞輪遺跡	糞輪126番1	498m ² (18m ²)	試掘調査	23.9.27	土坑。(古代) 土師器、須恵器、珠洲出土。 本書報告。	個人住宅建設
6	日の宮・造林寺遺跡	糞沼371番外	105m ² (74m ²)	試掘調査	23.10.3 / 23.10.4	自然流路跡。 土師器、須恵器、 中世土師器、珠洲、 近世陶器出土。 本書報告。	活断層の活動 履歴解明調査
7	金屋本江遺跡(2) 「区画整理」	金屋本江320番 外	9,160m ² (385m ²)	試掘調査	23.10.3 / 23.10.24	溝もしくは自然流路跡。 近世陶器出土。 本書報告。	経営体育成基 盤整備事業
	金屋本江遺跡(2) 「排水路横断 渠工事」	金屋本江地内	72m ² (20m ²)	試掘調査	23.12.2 / 23.12.6	土坑。(時期不明) 土師器、須恵器、珠洲、 近世陶器出土。 本書報告。	
8	田川・田川条里 遺跡	田川地内	50,000m ²	分布調査	23.11.18	土師器採取。	経営体育成基 盤整備事業

市内遺跡発掘調査等事業位置図



金屋本江遺跡について

調査の経緯

金屋本江遺跡は、昭和49年（1974年）、土砂採取工事中に地表下約150cmより、鎌倉時代から南北朝時代と推定される五輪塔の集積が発見されたことから、埋蔵文化財包蔵地として登録された。このうち2基の五輪塔は小矢部市指定文化財されている。

その後、金屋本江地内では、遺跡の調査をする機会は得られていなかったが、平成22年度に100ヘクタールに及ぶ大規模な「県営ほ場事業」が計画され、分布調査の機会を得た。その結果、東西が約900m、南北が約1,100mの広大な面積を持つ遺跡であることが判明し、範囲の拡大として再登録した。採取遺物から遺跡の時期は古代と中世の二時期あると推定される。

平成23年度の調査

前年度に拡大した範囲内で、土地改良区および地元代表者の方々にご理解とご協力をいただきて、地元の方々に周知されたことが結実し、開発に際して協議し発掘調査の機会を得た。

本年度は土砂採取と農業基盤整備を原因とする2件の調査を実施した。本書では、金屋本江遺跡（1）と（2）として報告する。なお（2）については、同じ原因であるが工事内容および工事場所、工事時期が大きく異なることより、【区画整理】と【排水路横断暗渠工事】と更に分けて報告する。

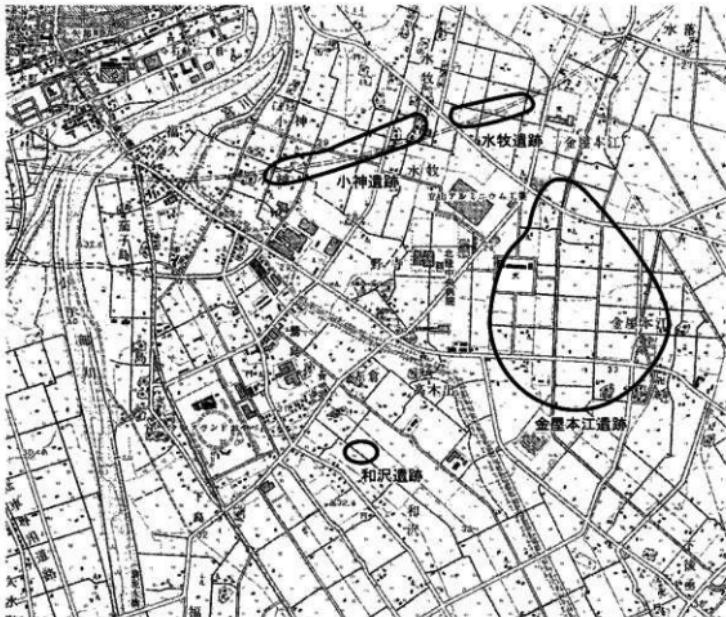


図1 金屋本江遺跡とその周辺の遺跡(1:25,000)

金屋本江遺跡(1)



図2 調査位置図
(1:5,000)

調査の概要

今回の調査は土砂採取工事に先立つもので、7月5日～7日の3日間で実施した。調査対象地内に、1.2m×14mを7ヵ所、1.2m×10mを1ヵ所の試掘トレンチを設定した。(図3)重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は平均で約100cm前後となった。基本層位(図4)は表土の暗褐色シルトの耕作土除去後より、1層：黒褐色シルト、2層：暗灰色シルト、3層：黄褐色シルト、4層：黄褐色砂、5層：黄褐色砂礫ある。2層は10～20cmの厚さの遺物包含層と考えられる。出土量は多くないが、古墳時代から、古代、中世、近世と時期幅がある遺物を確認している。遺物包含層を掘り下げ人力で精査したが、遺構は自然流路以外は確認できなかった。

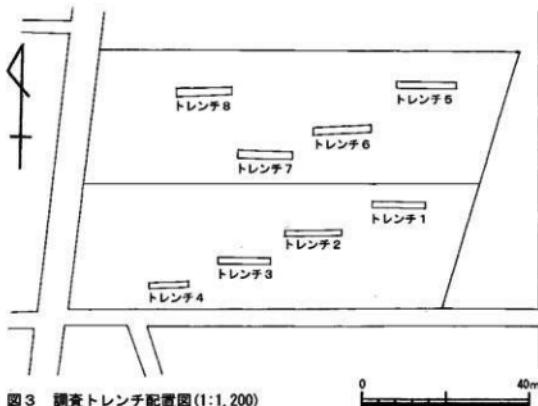


図3 調査トレンチ配置図(1:1,200)

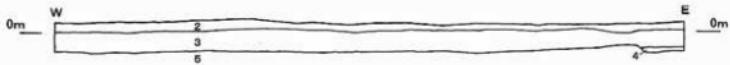
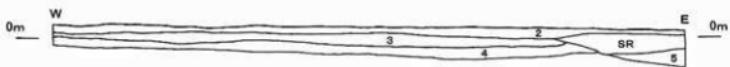


図4 土層図(1:100)
上段：トレンチ1北壁、下段：トレンチ7北壁



土色

- 1 黒褐色シルト(2.5YR3/1)=図面には無い
- 2 緑灰色シルト(2.5Y4/2)
- 3 黄褐色シルト(2.5Y5/3)
- 4 黄褐色砂(2.5Y5/4)
- 5 横層

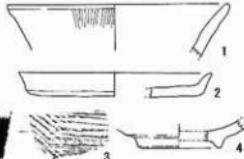


図5 出土遺物(1:3) 0 10cm



トレンチ7 北壁土層



壁面精査作業

遺物(図5)

出土した遺物は須恵器、土師器、珠洲、近世陶磁器であるが、小片が多く比較的残りが良い遺物を図化した。1は5世紀代の壺口縁部片でラッパ状にひらく。外面は細かな、内面は幅が約7mmのハケで調整されている。2は中世土師皿で口縁部端部は短く立ち上がる。内・外面上にもハケでナデている。3は珠洲の体部片で、外面には綾杉状の叩き目がある。4は近世陶磁器の底部片で、高台はヘラで削りだされ生地のままである。内面は鉄軸がかすかに残る。その他、図化でいなかったが赤色顔料の塗布が残る高杯脚部片、須恵器杯の底部片がある。

まとめ

今回の調査では、古代もしくはそれ以前の遺物包含層を確認できた。また古墳時代から近世と時期幅のある遺物が出土したが、中世については表探遺物であることから、昭和40年代後半の圃場整備によって中世は削平された可能性もある。しかしながら、遺構の確認はできなかつたものの中世以前の遺跡が遺存している可能性が示された。

金屋本江遺跡（2）【区画整理】



図6 調査位置図
(1:10,000)

1. 調査の概要

今回の調査は「経営体育成基盤整備事業」に伴う金屋本江遺跡の埋蔵文化財包蔵地試掘調査である。今回の調査対象は約9,000m²であり、金屋本江遺跡の南西端に位置する。また標高は約32mで、高低差の少ない沖積地に立地する。

試掘調査は10月3日～24日の実働12日間でおこなった。このほかに事前準備として測量基準点の設置、地権者に対する挨拶、仮設トイレの設置、機材搬入、トレーンチ設定等に数日を要した。



図7 試掘トレーンチ配置図 (1:1,000)

調査は幅1m、深さ1mの試掘溝を29本設定し、バックホーを用いて、遺構・遺物を確認しながら慎重に掘削をおこなった。発掘面積は約385m²である。

各試掘溝の土層断面を図8に示した。基本土層は大きく4層に分けられる。I層は水田耕作土で、黄灰色を呈する粘質シルトである。II層は灰黄褐色砂層または砂質シルト層で、固くしまり、植物根の跡が確認できる。III層は河川由来の砂層である。基本は水平堆積の砂層であるが、部分的にシルトや流木片の堆積がみられた。IV層は、おおむね15cm以下の円礫で構成される礫層である。礫層中には、ときに砂やシルトの層が入り込む。なお、III・IV層において、噴砂を数か所確認している。



3. 遺構

今回の調査では、13トレンチにおいて、溝あるいは自然流路を確認した。遺物は伴っていない。このほか遺構は確認できなかった。

4. 出土遺物

耕作土直下から7点の遺物を得た。図示できるものを図9に示す。

1～4は近世の磁器である。1・2は7トレンチより出土した。1は内外に明緑灰色の釉を施す。2は内外面に絵付けを施す。3は11トレンチより出土した。外面に絵付けを施す。4は21トレンチより出土した。稜をもって立ち上がる体部をもち、高台がつく器形と思われる。内外面に絵付けを施す。5は唐津皿の高台か。15トレンチより出土した。内面に灰釉を施し、重ね焼き痕と思われる、釉のかからない部分が確認できる。

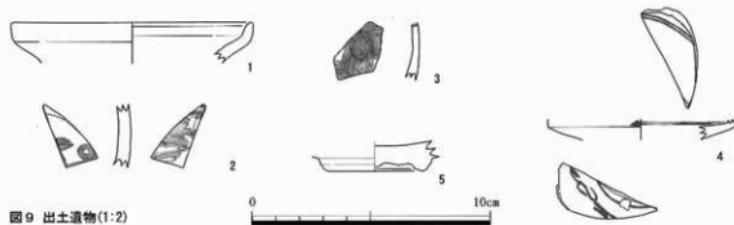


図9 出土遺物(1:2)



断面土層記録作業



遺構検出



機械掘削



測量作業

金屋本江遺跡(2)【排水路横断暗渠工事】



図10 調査位置図および試掘ビット配置図(1:12,000) □～○が調査箇所 (○と△は調査せず)

1. 調査の概要

今回は排水路横断暗渠工事に先立つ調査で、12月2日～6日の実働3日間実施した。対象地は約700,000m²の範囲で12箇所に点在しており、1箇所の平均面積は3×3mである。この大部分は水路であるため掘削場所はわずかであった。12箇所のうち2箇所は水道管が埋設されているなどの問題があったため10箇所で、1m×2mの試掘ビット(=Pと以下記す)を設定した。(図10)

遺物有無を確認しながら、重機械により掘削し、平面及び断面を人手により精査した。最終的な掘削深度は平均約1～1.5mである。

基本層位については、調査地が点在するため、統一の層位は得難いが、当初予測していた河川由来の砂礫層は2ヵ所で認められたのみで、その他はシルト層の安定した堆積を確認した。(図12) 8箇所で共通する黄灰色シルト層は20～30cmの堆積厚で炭化物を含み、出土遺物はわずかであるが遺物包含層と考えられ、P8で出土した土師器と須恵器で明確な時期は定めがたいが古代の遺物であろう。遺構はP1で土坑1基を断面で確認した。

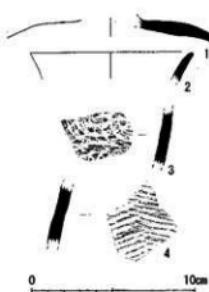


図11 出土遺物(1:3)

遺物（図11）

出土した遺物は、須恵器、土師器、珠洲である。P 8で出土したものがほとんどであるが、珠洲はP 7の上層で出土したものである。いずれも小片で詳細な時期は与えられないが、須恵器は、つまみ部分への立ち上がりがわずかではあるが認められることから杯蓋と判別できる。その他は胴部破片で内面に同心円の叩き目が施されている。珠洲は外壁に綾杉の叩き目を留める。

まとめ

当地は庄川の氾濫源で河川の改修工事が行われる明治以前は、生活ができる場所ではなく遺跡は無いものと認識されていた。しかしながら、今回の調査によって時期的には古代であろうと推定される堆積層が、工事範囲の全般で確認できたことにより、実際に遺跡が遺存している可能性が高く、今後の開発に対してこれまで以上に注意を向ける必要がある地域となった。

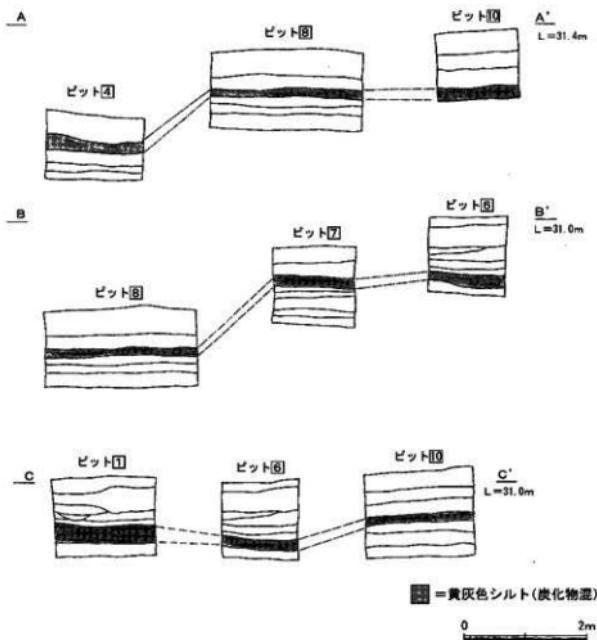


図12 遺物包含層(=黄灰色シルト層)の推定ライン(縦=1:80、横:任意)

田川遺跡



図13 調査位置図
(1:5,000)

調査の概要

田川遺跡は高岡市福岡町と接する市域の北端に位置し、小矢部川左岸の低位段丘上に立地する。遺跡は分布調査でその存在を周知され、これまでの試掘調査では小規模な面積ではあるが、古墳～中世までの遺物が確認されている。今回の調査は個人住宅建設に伴うもので、調査地は遺跡範囲の北端に位置する。現状は水田である。

現地調査は2011年(H23)年8月9日に実施した。調査対象地498m²に調査対象地内に、1m×10m、1m×12mの2ヵ所の試掘トレンチを設定した。(図14)重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は140cm前後となった。

基本層位(図15)は1層：褐色シルト(旧表土)、2層：黒褐色シルト、3層：灰褐色シルト、4層：黒色粘土である。当該地は調査前から表面に水が溜まっていたためか、1～3層まで土質が軟質であったため、トレンチ内に水が溜まらないよう配慮したうえで調査にとりかかった。3層上面で時期の特定

は難しいものの3点の土師質土器が出土した。その後、平面を人力で精査したが生活や活動の痕跡である遺構は確認できなかつた。

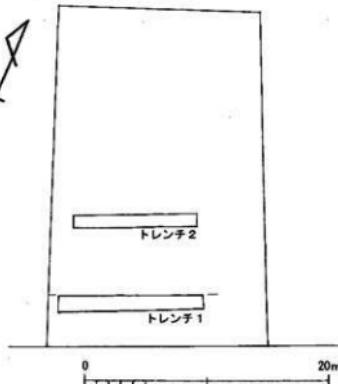


図14 調査トレンチ配置図 (1:400)

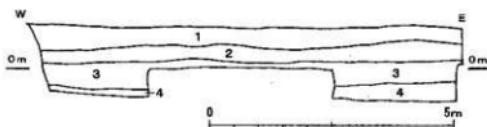


図15 トレンチ1北壁土層図 (1:100) 土色
1 褐色シルト (10YR4/1)
2 黒褐色シルト (10YR3/2)
3 灰褐色シルト (10W4/2)
4 黒色粘土 (5Y2/1)に淡黄色砂 (5Y8/4)の混入

義輪遺跡

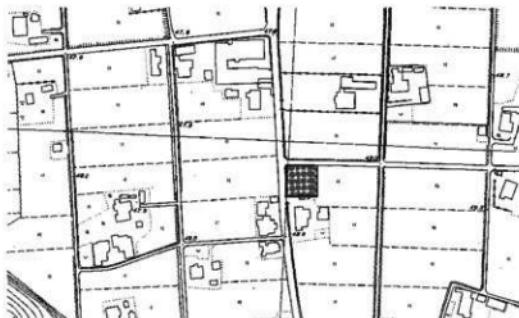


図16 調査位置図
(1:5,000)

調査の概要

義輪遺跡は小矢部川左岸から、小矢部市の南端に位置する低丘陵の山裾東側にかけての段丘上に立地し、東西約600m、南北約1,000mと広大にひろがる遺跡である。今回の調査は個人住宅建設に先立つもので、9月26、27日に実施した。調査対象地内に、1m×9mの2ヵ所の試掘トレンチを設定した。(図17) 重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は100cm前後となった。

基本層位(図19)は1層：黒褐色シルト(耕作土)、2層：灰黄褐色砂(遺物包含層)、3層：黒色粘土、4層：灰黄色粘土である。トレンチ1・2の2層から古代の遺物が出土し、遺物包含層の可能性があるため、3層上面を人力で精査した。その結果、トレンチ2で土坑を1基検出したが、埋土に遺物は無く、詳細な時期や性格も不明である。

遺構(図18)

トレンチ2で、直径が0.54mのほぼ円形を呈する土坑を検出した。深さは0.2mと浅く、すり鉢状の断面であるが、遺物は無く時期は確定できないが、上層の覆土が古代の包含層であるため、同時期かもしくはそれ以前のものであろう。

遺物(図20)

遺物は、小片ながら須恵器、土師器、珠洲が出土した。土師器は摩滅が著しく図化はできないが、擬凹線を持つ口縁部片があることから古墳時代前半の時期のものもある。

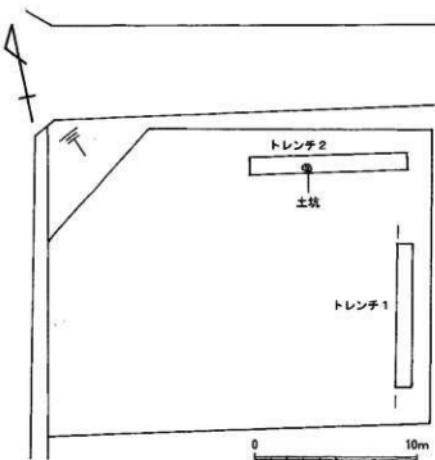
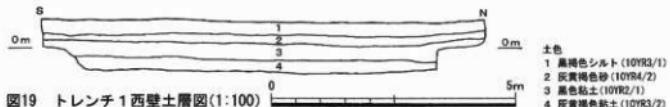
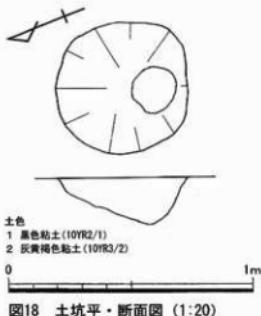
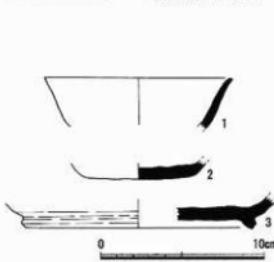


図17 調査トレンチ配置図 (1:300)



る。図化した3点の須恵器は、1、2ともに杯身である。1は体部が立ちぎみで、細やかなナデ調整がなされている。2は底部片で厚く、箝削りがみられる。3は高台杯である。時期はいずれも8世紀代であろう。その他、須恵器の杯蓋内面に同心円の叩き痕をもつ体部片があった。珠洲は掘り鉢口縁部でV期以後に属すものが見られた。



日の宮・道林寺遺跡

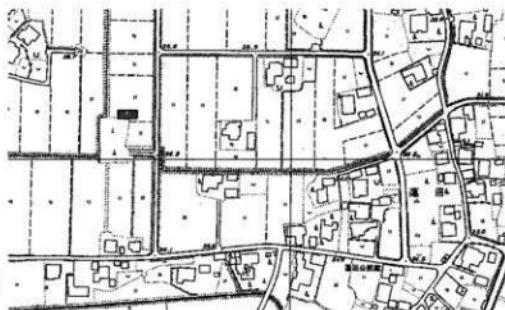


図21 調査位置図
(1:5,000)

調査の概要

日の宮・道林寺遺跡は市街地の南西、渋江川左岸の段丘上に位置する。今回の調査は、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響を受け、小矢部市に存在する石動断層の活動履歴解明調査が行われることに先立つものである。15m×7mの対象面積のなかに、1×9mの試掘トレンチを2カ所設定した。(図22) 重機械により掘削し、平面及び断面を人手により精査した。掘削深度が70cm前後のところで、地山である灰オリーブ砂を確認した。壁面を精査し、遺物が混入する層が認められたため平面的に拡張した。

北側壁面の層位は1層：耕作土、2層：擾乱、3層：黒褐色シルト、4層：黒褐色シルト(灰オリーブ砂に礫や炭粒が混入した塊に入る)、5層：黄褐色砂、6層：褐灰色砂、7層：灰黃褐色砂(有機質腐植土や炭粒が混入)、8層：暗褐色砂(有機質腐植土や炭粒が混入)、9層・10層：黒褐色シルト(炭粒混)、11層：褐色砂、12層：灰オリーブ砂である。(図23)

遺構

2本のトレンチの間を平面的に拡張したところ、8条の溝もしくは、自然流路を検出した。検

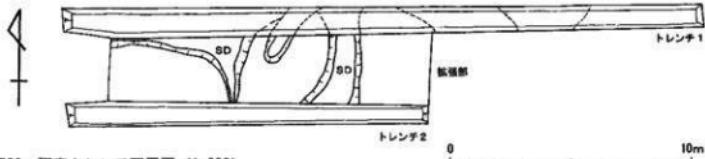


図22 調査トレンチ配置図 (1:200)

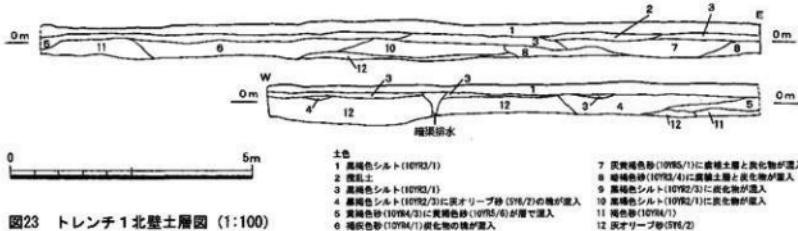


図23 トレンチ1北壁土層図 (1:100)

- 1 黒褐色シルト(NH92/1)
- 2 擾乱土
- 3 黒褐色シルト(NH92/1)
- 4 黑褐色シルト(NH92/3)に灰オリーブ砂(316/2)の塊が混入
- 5 黄褐色砂(1094/3)に黄褐色砂(1095/6)が層で混入
- 6 褐灰色砂(1079/4)に化物の塊が混入
- 7 灰黃褐色砂(1095/1)に赤褐色土層と化物が混入
- 8 灰褐色砂(1092/4)に赤褐色土層と化物が混入
- 9 黑褐色シルト(1092/3)に化物が混入
- 10 黑褐色シルト(1092/1)に化物が混入
- 11 褐色砂(1079/1)
- 12 灰オリーブ砂(516/2)

出した流路と北側壁面を相互で確認し、切り合い関係や含まれる遺物なども鑑みて、古くは古代のものから中世の流路があると推定される。なかでも6層の壁面には長頸瓶の破片が刺さる状態で出土しており、8世紀代の流路だと考えられる。そのほかは中世や近世の遺物があるが、トレンチ掘削時に出土し層位ごとに取上げられなかったことから、流路に明確な時期は与えられなかった。

遺物(図24)

出土した遺物は流路出土遺物であるため、土師質の土器は磨耗が著しく、その他も比較的良好な遺物を図化した。1、2は須恵器で8世紀代であろう。1は長頸瓶の頸部片で1条の沈線を持つ。2は高台杯の底部片で、底部の境に稜線を持ち、高台の底を笠で平らに仕上げている。3は糸きり底の土師器皿で、12世紀前後に属すであろう。4、5は株洲の插鉢で、4は口縁部片、5は底部片である。6、7は唐津で、7の内面底部は生地のままで、底部に軸の蛇の日ハギが施され黒褐色で文様が付けられている。

まとめ(図25)

当該地の南側には東の砺波丘陵から南の渋江川に合流する閑川が位置しており、昭和40年代に、ほ場整備事業とともに改修工事が施されるまで水害を起こしていた。また、当該地周辺では、旧石器から中世までの各時代の遺物や遺構が確認されており、なかでも100m南東には室町時代に城下町が築かれ、天正年間に壊滅した蓮沼城があったと推定される場所が位置している。蓮沼はその終末が火に包まれたとされており、今回の調査で確認した流路の覆土に含まれる大量の炭粒がその残骸かどうかは確かめられないが、当該地周辺に遺物や遺構が濃密に遺っている可能性が高いと考えられる。

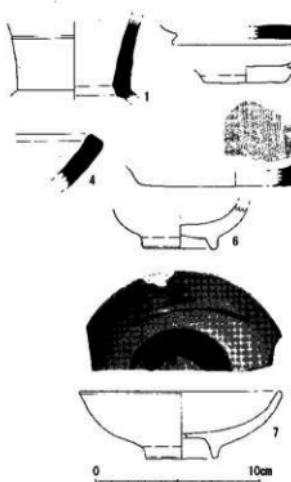


圖24 出土遺物 (1:3)



図25 今回の調査地周辺図 (1:30,000)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせいにじゅうさんねんどおやべしまいぞうぶんかざいはくつちょうさかいほう
書名	平成23年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第72冊
編著者名	中井真夕 朝田 要
編集機関	小矢部市教育委員会
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号
発行年月日	西暦2012年3月27日

所収遺跡名	所在地	コード	北緯		東經		調査期間	調査対象面積(m ²)	調査原因
			市町村	遺跡番号	°	'			
					世界測地系	世界測地系			
金屋本江遺跡(1) 【区画整理】	小矢部市 金屋本江 212-2外	16209	163	36° 39' 27"	136° 53' 48"		20110705 / 20110707	5,425	土砂採取
金屋本江遺跡(2) 【区画整理】	小矢部市 金屋本江	16209	163	36° 39' 19"	136° 54' 15"		20111003 / 20111024	9,160	経営体 育成基盤 整理事業
金屋本江遺跡(2) 【排水路横断 暗渠工事】	320番外	16209	163	36° 39' 45"	136° 53' 03"		20111202 / 20111206	72	
田川遺跡	小矢部市 田川 7272番4	16209	013	36° 41' 45"	136° 52' 59"		20110809	498	個人住宅 建設
蓑輪遺跡	小矢部市 蓑輪 126番1	16209	153	36° 36' 53"	136° 52' 05"		20110926 / 20110927	498	個人住宅 建設
日の宮・造林寺 遺跡	小矢部市 蓮沼 371外	16209	057	36° 39' 35"	136° 51' 12"		20111003 / 20111004	105	活動層の 活動歴 解明調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項
金屋本江遺跡(1)	散布地	古代か	自然流路	土師器、須恵器、珠洲、 近世陶器	
金屋本江遺跡(2) 【区画整理】	散布地	不明	溝?	近世陶器	
金屋本江遺跡(2) 【排水路横断 暗渠工事】	散布地	古代か	土坑	土師器、須恵器、珠洲、 近世陶器	
田川遺跡	散布地	不明	なし	土師質土器	
蓑輪遺跡	散布地	古代	土坑	土師器、須恵器、珠洲	
日の宮・造林寺 遺跡	散布地	古代	溝、自然流路	土師器、須恵器、 中世土師器、珠洲、唐津	

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第72冊

富山県小矢部市

平成23年度 小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 平成24年3月27日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1-1

TEL 0766-67-1760

印 刷 トッププリント